

経営比較分析表（平成29年度決算）

宮崎県地方独立行政法人西都児湯医療センター 西都児湯医療センター

| 法適用区分 | 業種名・事業名 | 病院区分 | 類似区分 | 管理者の情報 |
|----------|-----------------------|---------|--------------|------------|
| 地方独立行政法人 | 病院事業 | 一般病院 | 50床以上～100床未満 | 非設置 |
| 経営形態 | 診療科数 | DPC対象病院 | 特殊診療機能 ※1 | 指定病院の状況 ※2 |
| 直営 | 9 | - | 訓 | 救災 |
| 人口(人) | 建物面積(m ²) | 不採算地区病院 | 看護配置 | |
| - | 3,749 | 第2種該当 | 7:1 | |

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

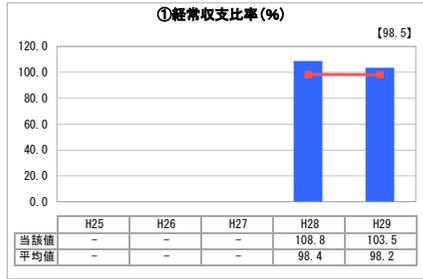
| 許可病床(一般) | 許可病床(療養) | 許可病床(結核) |
|----------|-----------|-------------|
| 91 | - | - |
| 許可病床(精神) | 許可病床(感染症) | 許可病床(合計) |
| - | - | 91 |
| 稼働病床(一般) | 稼働病床(療養) | 稼働病床(一般+療養) |
| 65 | - | 65 |

グラフ凡例

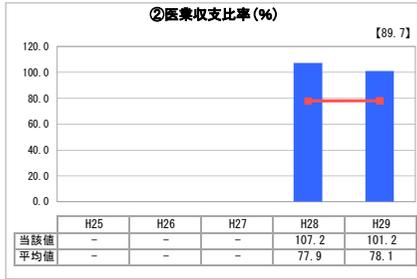
- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)

【】 平成29年度全国平均

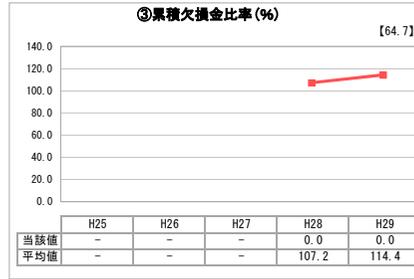
1. 経営の健全性・効率性



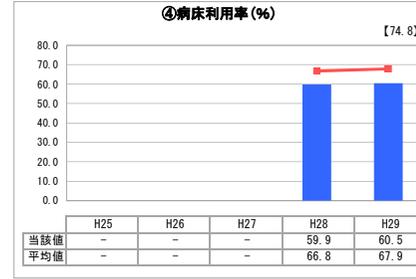
「経常損益」



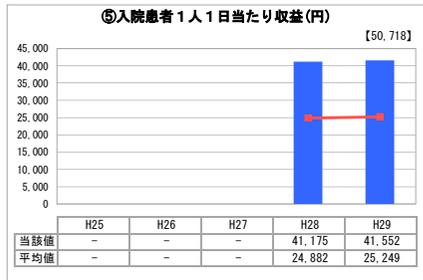
「医療損益」



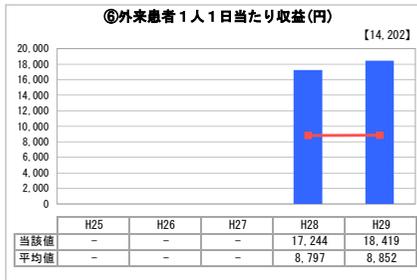
「累積欠損」



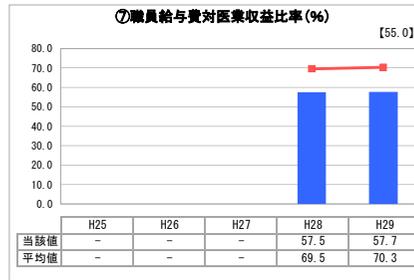
「施設の効率性」



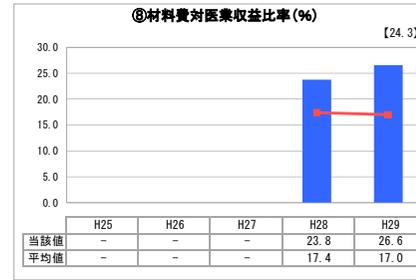
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

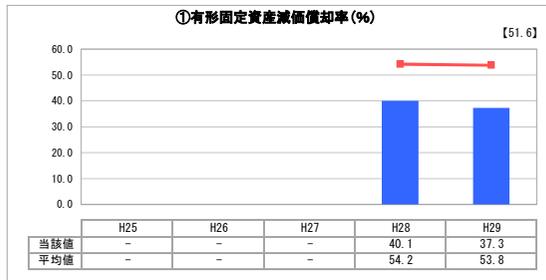


「費用の効率性①」

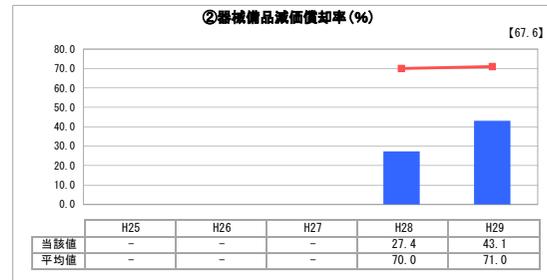


「費用の効率性②」

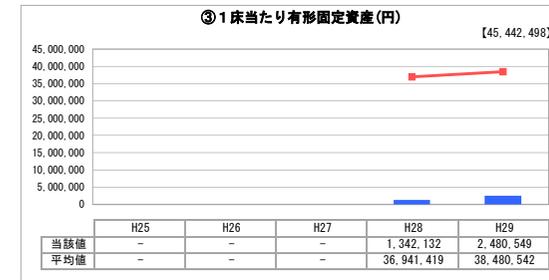
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

一次救急医療施設、二次救急医療施設、共同利用型開放病院、西都児湯地域の地域災害拠点病院

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・経常収支比率及び医療収支比率は共に100%以上となっており、健全な経営が維持されていることが示されているが、経営の健全性を維持するためには運営費負担金が不可欠である。
 ・病床利用率が類似病院平均値より低いのは、許可病床数(91床)比較であるため、稼働病床数(65床)で算定すると、利用率は84.8%となり、夜間及び休日救急分を考慮するとほぼ満床の状態となっている。
 ・収益においては、入院・外来共に類似病院平均値を大きく上回っており、安定した収益を確保している。
 ・人件費については類似病院平均値と比較して、比率は高くはない。しかし、材料費については類似病院平均値より若干効率性の低い値となっている。徹底した価格交渉による材料費の削減に取り組み、単価の上昇を抑えるコスト削減に引き続き務めている。

2. 老朽化の状況について

昭和55年に病院が建設されており、建設後38年が経過している。施設の所々に老朽化の影響が出てきており、空調機器や電気系統の故障などの発生頻度も増加し、それに伴う修繕や改修増加の傾向にある。
 耐震調査で外壁強度が一部基準を満たしていないため、平成30年度耐震補強工事を実施。
 外来の待合室や廊下も狭く、入院病室にいたっては、もともと6人部屋として使用していたが、患者1人あたりの必要面積の制限もあり現在は4人部屋として使用している。そのため、許可病床91床であるが、稼働病床は65床で運用している状況である。

全体概括

平成28年4月から、地方独立行政法人へ運営形態を変更し、西都市の作成した中期目標に沿った中期計画を立案し、目標達成に向け職員一丸となって運営に取り組んでいる。一般病棟入院基本料7対1を堅持し、高齢化が進む地域住民の急性期医療のニーズに対応した医療の提供を行いつつ、医療機能・患者サービス向上、経営安定のために必要な医療従事者を計画的に採用している。夜間急病センターは、常勤医師を中心に宮崎大学医学部や周辺医師会などからの協力により、内科・外科を毎日診療できる体制構築に努めている。
 患者数は、入院患者、外来患者ともに徐々に増加しており経営状態も安定してきている。
 今後の課題として、施設及び機械備品の老朽化や新病院建設に係る費用等、多額の支出を要することが予測されるため、増収対策の検討、業務の質を確保した経費削減を図る必要がある。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。